

先報では♪春は名のみの野の寒さや〜♪ で書き始めましたが、これも3月中旬までのこと、この後は一転して各地で夏日の記録されるほどの陽気が戻ってきました。こうなると開花や展葉を待ち焦がれていた植物たちにとっては絶好のチャンス、一斉に開花や展葉がはじまりました。ご承知とは思いますがこの季節、日平均気温が15℃になれば2日分、20℃ともなれば3日分成長し、桜などの開花が早くなると言われています。こうなると“3日見ぬ間の桜かな”どころか、1日の内でも朝と夕方、夕方と翌朝ではすっかり様子が変わることなど珍しくもなくなって来ています。こうなるとお花の追っかけも大変、何とか以前から記録して来て居る「マイ標準木」を中心に駆けずり回って来ました。

＊この暖気は植物たちにとっては、確かに待ち望んだものであったかも知れませんが一方で乾燥と強風も運んできました。先報では、東北・大船渡の山林火災について触れましたが、心配していた乾燥状態で春季を迎えた西日本の各地でも、2月下旬の岩手県大船渡市に続き、3月下旬には岡山市、愛媛県今治市、宮崎市などで立て続けに発生しました。例年、春先は乾燥して枯れ草や枝、葉が燃えやすく、強風も相まって広がりやすい。たき火や野焼きが主な原因とされています。因みに、日本における森林火災は最新の消防白書によると、2023年に全国で発生した林野火災1299件のうち月別では3月が最多の325件、4月の222件、2月の132件と続きこの3カ月で全体の5割を超えるとのこと。資料を見る限りではこの季節、結構林野の火災は毎年起こっている様ですが、今年のように大規模な火災は稀なのでしょう。

＊一方、お隣の韓国の南東部の慶尚北道で3月21日に発生した山林火災は27日の降雨でやっと鎮火の目途がついたと伝えられました。こちらの消失面積は少なくとも4万8000ha, (cf.岡山550ha), 3400棟以上の住宅や工場が被害にあった。また文化財にも多くの被害がでたと報じられています(同道には慶州市や現在は特別市となっているが大邱市など、日本の大和・飛鳥と同様に古墳群、古都の遺跡が多い地域)。この大規模火災の原因も韓国気象庁は気候変動による気温上昇が地表の乾燥を招き、同道は盆地なので、韓国でも最も暑い地域とされ、25日、同道で28.0℃の気温が記録され、海側との温度差で強風を発生させたことが火勢を強め、焼失面積の拡大の要因となったとしている。

地球温暖化による異常気象の発生、その影響はアメリカ大陸やヨーロッパだけでなくアジア地域も拡大して来ているのが現実の姿ではないでしょうか。

毎度のことながら気象の経過や予報から書き始めたいと思います。毎度繰り返しですが、陸上の植物の生き様は気象条件によって大きく変わって来るからです。

1. 近畿地区の気象予報と実際の検証

前報では、大阪管区気象台発表の向こう1ヶ月間の気象予報を記述しました。概要は・・・

第1週目 (3/15～3/21) 天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 気温：低70並20高10% **低い見込み**

第2週目 (3/22～3/28) 天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 気温：低10並30高60% **高い見込み**

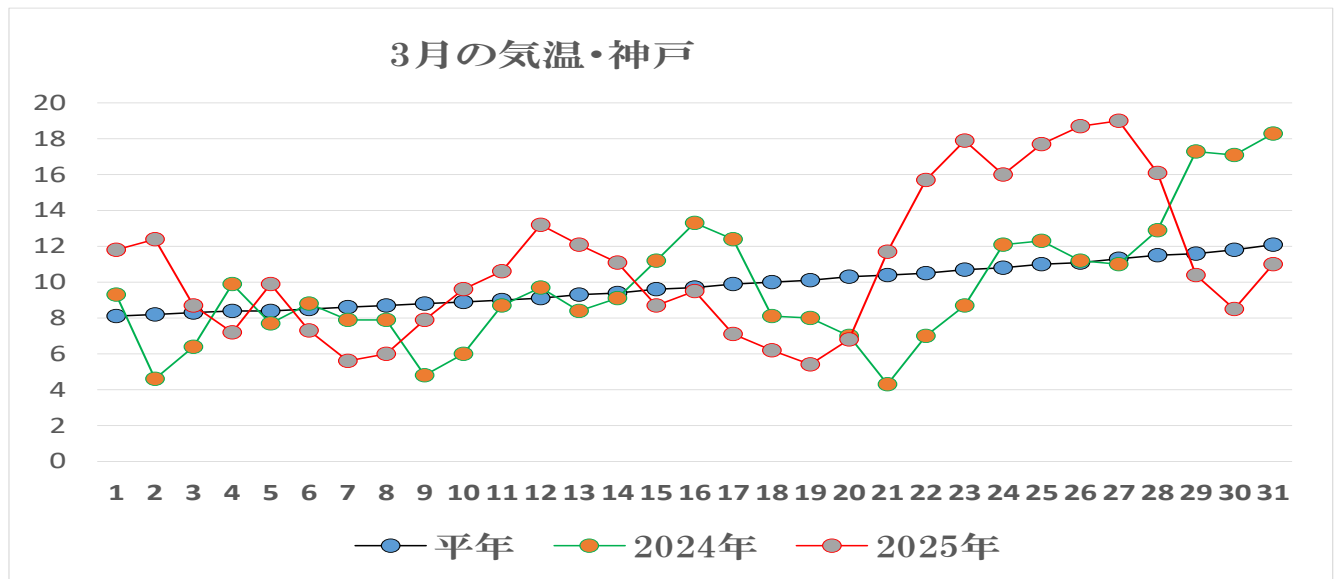
との予報が出されていることを報じた。 さらに、

3～4週目 (3/29～4/11) 近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い

でしょう。 気温：低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み

＊上記の予報はどの程度当たっていたのでしょうか。下記の神戸の3月の気温経緯で検証して見ます。

1－2. 3月の神戸の気温の経緯



今後の経過はともかく、予報された15日から28日の間の予報は見事に的中していたと言えます。

それでは今後の気象について、気象庁はどのように見ているのでしょうか、3月25日に向う3ヶ月間の天候の予報が出されていますので紹介しておきます。

2. 向う3か月天候の見通し（4月～6月、気象庁3月25日発表）

全国（4月～6月）

・向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北日本では高く、東・西日本では平年並か高いでしょう。（地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。）

・上空の偏西風はユーラシア大陸東部で北に、日本付近で南に、日本の東で北に蛇行する見込みです。日本付近では、期間の前半は平年の位置からやや南を流れやすく、期間の後半は平年とほぼ同様の位置を流れやすいでしょう。この結果、日本の北では平年に比べ暖かい空気に覆われやすいでしょう。

期間の前半は、東・西日本と沖縄・奄美を中心に湿った空気が流れ込みにくい時期があり、低気圧や前線の影響をやや受けにくいでしょう。期間の後半は、東日本太平洋側と西日本を中心に湿った空気が流れ込みやすい時期があり、低気圧や前線の影響をやや受けやすいでしょう。

近畿地方（4月～6月）

向こう3か月の気温は、期間の後半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。

向こう3か月の平均気温・降水量の見通しは以下の通り

月別の天候（近畿太平洋側）

・4月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温：低 30 並 30 高 40% **ほぼ平年並**の見込み 降水量：少 40 並 30 多 30% **ほぼ平年並み**

・5月天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温：少 40 並 30 多 30% **ほぼ平年並み** 降水量少 30 並 40 多 30% **ほぼ平年並み**

・6月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温：低 20 並 30 高 50% 高い見込み 降水量：少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み

・なお、4月前半に關しての天気は周期的に変わるが気温、降水量ともほぼ平年並みの予報です。
以下本論の花だよりといたします。

3. ソメイヨシノの開花

3-1. 全国の開花日

花と言えば桜、桜と言えば「ソメイヨシノ」でしょう。上記に3月の神戸の今年の気温経過をグラフで示しましたが、これは一地域の例ですが少なくとも西日本では同様な傾向にあったと思われます。グラフでお分りのように3月下旬の異常な気温の上昇で「ソメイヨシノ」の開花は各地で23日~28日の6日間で全国の32ヶ所で開花宣言がなされました。近畿でも彦根を除く5ヶ所でこの間に開花宣言がされています。また、30日までには6ヶ所では既に満開の宣言がされています。取り敢えず今年の開花の傾向を見る目的で今年の開花日、ベスト10の地域を挙げておきます。

3月23日開花 高知、熊本 (高知、熊本は3月28日満)

3月24日開花 長崎、鹿児島、東京、宮崎 (東京は3月30日満開)

3月25日開花 大分、佐賀、福岡、岐阜、横浜 (福岡は3月28日満開)

例年開花の早い、東京・横浜は例外ですが、26日には高松、徳島なども開花しており、開花は九州・四国など南部から北方への傾向です。また、開花から満開までの日数が短いのも今年の特徴です。

2020年~2024年にかけての開花トップ10は昨年度の「2024年花だより10」で纏めていますので参照下さい。なお、昨年度は本年度と同じように、高知が3月23日の開花、宮崎が3月25日、熊本、長崎が3月26日、福岡3月27日など九州・四国から北上する形で開花が始まりました。

なお、今年の開花日は上記の地域では平年値か1日~3日の差となっています。多分、気象会社等は11月の気温高を考慮し休眠打破の遅れ、また、3月中旬までの低い気温経過から側近では平年より開花が遅れるのではとの予報にシフトして来ていたようですが・・・下旬に入ってから異常な高温で上記のように平年並みに近い開花が記録されたと考えられます。

3-2. 近畿地区の開花状況

開花の早かった順にまとめておきます。

観測地	開花日	平年比	昨年比
和歌山	3月26日	2日遅い	4日早い
大阪	3月27日	平年並み	3日早い
神戸	3月27日	平年並み	5日早い
京都	3月27日	1日遅い	2日早い
奈良	3月28日	平年並み	3日早い

開花日は平年並みか1, 2日遅い、昨年比では3日~5日早くなっています。

なお、これ等の開花日から「休眠打破」の期間を400℃・Day法を使って逆算してみると、

大阪:2月5日前後、神戸2月6日前後、京都3月30日前後となりました。既に報告しているように、今年の切り枝・加温テストでは2月1日以前の枝では開花は見られず、2月11日採取の枝では1個の花芽の開花を報告。この知見を基に休眠打破は例年通りで遅れていないのでは無いかと報じました。数値化

は出来ないものの、12月以降2月初旬までの冬季気温を参考とすれば良いように思います。

3-3. サクラの芽の成長-2

前報、前々報では「スマホ」の写真機能をうまく使えばルーペや実体顕微鏡などなくてもミクロな観察に十分対応できるのではないかと事例を挙げて紹介して来たつもりです。

再掲になりますが、右の写真は上が3月6日のソメイヨシノの花芽の縦裁断画像でしたが、この時点では花となると思われる部分は2mmにも満たず、果たして花の分化があるか否かはわかりません。下は少し芽の先が開き緑色が覗いたかな？の16日時点の画像ですがこれでも何となく4mm程度の中身の中に2個の蕾らしき姿が見てとれるでしょうか。また、鱗片葉の先が緑色に変化して来ていることぐらいは分かるかと思います。

さらに、下左のように、花芽が1cm程度となり先が少しピンクを帯びてきた時点で、縦でなく横方向に切ってスマホで撮影してみたところ、はっきりと花芽の中の画像が得られました。

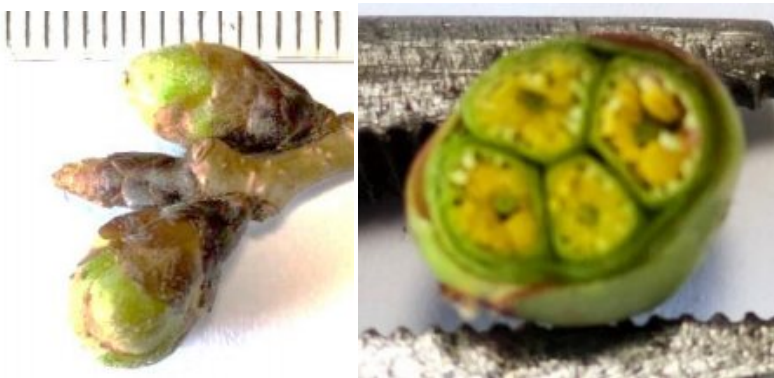


画像からは、この時点になれば花芽の分化・生成は明確にわかります。この花芽の中には、4個の蕾が形成されていることが明らかとなりました。後のまつりですが、もっと若い芽も横切りにして観察すれば良かったと反省している次第です。

ただ、今回の試みは前述の「スマホ」の写真機能をうまく使えば、ルーペや実体顕微鏡が無くとも微細領域の観察が出来るのではないかと、画像を得ることにより観察会などで参加者との共有が出来るか否かのテスト試行でした。

付録です。

左は開花間近かな「コウヨウザクラ」の膨れた花芽の断面画像です。如何でしょう。皆様も色々トライしてみませんか。



4. ソメイヨシノ以外の桜の開花情報など。

4-1. ヒカンザクラの開花・満開の情報

既報のように、気象庁の生物季節観測の「サクラ」の対象には奄美・沖縄地区ではヒカンザクラが挙げられており、既に今年の花だよりでは同地区の開花日情報はお伝えしています。また、宮古島における満開日も2月4日とお知らせしました。しかし、それ以降、奄美・沖縄・石垣島の3地区での満開日の報告はなされていません。過去、石垣島、宮古島では1, 2度満開日が報告されない年がありました。この理由は秋季の気温の関係で「休眠打破」が十分進まなかったのではないかと推測していました。今期は確かに11月の気温は各地共、平年より1, 2℃は高かったが12月以降は平年を可成り下回る気温が続いて来ており、「休眠打破」だけでは説明出来ない生き様があると思われます。花期の低温も影響、例えば、花の開花が長期にわたり、この間散る花もあり、規定の80%開花が観測できなかった？など。



当方の観測して来ている右の「標準木」は今年の開花・満開とも遅れましたが異常は感じられませんでした。過去5年間で最も遅い開花ですが、2月までの積算温度に加え、3月上旬の低温が影響したと思われます。観測標準木は画像通りですが、他の若木では枯れ枝や蕾の萎縮など異常が多く見られました。

	開花日	満開日	c f. 12~2月積算温度
2021年	2月21日	3月5日	791 (℃・Day)
2022年	3月3日	3月15日	612
2023年	3月4日	3月12日	664
2024年	2月18日	3月2日	775
2025年	3月14日	3月23日	623

4-2. ケイオウザクラ

本種に関しては昨年度の花だより6で詳述していますが、本来は切り花用に交配し作られた園芸種です。樹高もあまり高くはならず、枝も上方に伸びるので場所もとらないなど最近では庭木としても植栽され、私の近くでは3ヶ所ほどで路地植えとなっています。ここ5年間の開花・満開日の記録を挙げておきます。開花～満開の期間はその期の気温に大きく影響されます。母種であるシナミザクラのDNAを引継ぐようです。

	開花日	満開日
2021年	2月28日	3月5日
2022年	3月13日	3月15日
2023年	3月11日	3月13日
2024年	3月11日	3月17日
2025年	3月14日	3月21日



2022年、2024年などは開花から満開までわずか3日間でしたが、2ページに示したグラフから分かりますように花期の気温が平年を下回る期間であった為、長い花期となったと思われました。

4-3. ヨウコウザクラ（陽光桜）

・ヨウコウザクラに関しても、先の大戦の鎮魂と平和を祈念して人工的に作出された品種であることを記述いたしました。老年期を迎えたソメイヨシノの街路樹の代替候補の種としても挙げられており、実際芦屋市のサクラ参道などには数年前に30本ほどが植え換えられています。ヒカンザクラとアマギヨシノとの交配種とのことですが、花はカワズザクラより紅色が濃く、花も大型、樹形もソメイヨシノなどに比べると横広がりするより縦方向に伸長するようです。

この参道の陽光並木群とは別に、以前から観察を続けてきている右画像の標準木があり、この樹の開花・満開日の記録は以下の通りです。

	開花日	満開日
2021年	3月11日	3月21日
2022年	3月16日	3月29日
2023年	3月16日	3月22日
2024年	3月21日	3月29日
2025年	3月24日	3月29日

・サクラ参道の陽光ザクラは3月25日に開花、27日には2~3分となっていました。



4-4. ベニシダレ

このサクラも開花日等の監視が大変である。当方からは1kmほどの山側の芦屋市・六麓荘町にあり、毎日の監視はとても無理。下記に示すデータのごとく、今年の様に花期に暖かい日が続くと正に「三日見ぬ間の桜かな」となってしまいます。実際今年も3月23日に見に行った時には開花の気配すら見られなかったが翌24日夕方には1分咲きとなってしまいました。一応この日を開花日としました。

	開花日	満開日
2021年	3月15日	3月23日
2022年	3月23日	3月27日
2023年	*3月17日	3月23日
2024年	3月26日	4月1日
2025年	3月24日	3月27日

・それよりも、右上は昨年度の画像、下は今年のほぼ同じ位置からの画像ですが・・・枯れ枝なども多く見られ、樹勢が衰えて来ているのではないかと感じさせられます。去年の夏期の異常気象の影響かな？



4-5. オオシマザクラ

オオシマザクラはヤマザクラやソメイヨシノと共に良く街中でも植栽される桜ですが、何気なく見ていると区別が難しい。白色で開花するが、日が経つにつれて薄い紅色に変わって来ます。こうなると花色だけからはソメイヨシノとの区別がつかなくなります。お粗末な話ですが、近くのマンションの外周にサクラが20本ほど植えられている桜並木があり数年前までは、全てソメイヨシノと思い込んでいました。この内、実は3本がオオシマであることに気付いたのは「サクラ調査」を始めた5年前、それ以降は区別し観測対象として来ています。その気になって観ていると開花時の芽の苞葉、蕾・花柄などもが緑色であり、花色も純白、通常ソメイヨシノのより開花が2, 3日早いので区別は容易ですが、開花後には日を追うごとに花弁が紅色に転じて来ます。こうなると花だけではソメイヨシノとのことです区別が難しくなります。

(下の画像で継時変化を観て下さい。)



さらに、厄介になって来ているのが最近オープンするマンション前庭や公園などにはヤマザクラ系の植栽が増えて来ていることです。従来の褐葉・紅色花系であればとも角、最近は大島そっくりの緑葉・白色花系の植栽が増えて来ていることです。これとオオシマザクラの区別は極めて難しいのです。今のところ、開花が少し遅いのと、花の色（白色）が終わりまで変わらないことで判別はしていますが・・・。

*観測地の5ヶ年間の記録は以下の通りで、附近のソメイヨシノより2, 3日開花は早目です。今年は昨年より10日程遅い開花、開花期の3月の気温経過にリンクしていると思っています。

	開花日	満開日
2021年	3月16日	3月25日
2022年	3月24日	3月29日
2023年	3月18日	3月24日
2024年	3月27日	4月2日
2025年	3月26日	3月30日

*右の桜並木にはオオシマザクラが1本入っています。まだソメイヨシノは満開ではありませんが・・・。



5. 雑記

サクラに関しては、まだコヒガンザクラ、ジュウガツザクラの再開花、ヤマザクラ（甲山森林公園）や久しぶりにお目にかかったエドヒガン（きずきの森）、オオヤマザクラ、夙川舞桜などの画像も収録していますが、上記の種のように開花日、満開日など過去からの記録はないので紙面の関係で本報での掲載は致しません。気が向けば次号などで他の花々の画像と共にまとめ、「早春の樹木の花」としてでも報じたいと思います。ここでは、先報でのクイズ？出しっぱなしでは無意味。本報で解説しておきます。

「MNC3 月度観察会での問い掛けについて」

*ハクモクレンの冬芽：芽の下の子を一周する 2 本の線は何でしょう？

モクレンの花芽は 5 月に生成されるとされるが・・・秋季になると開花にそなえ肥大して来る。この間に外側の芽鱗（鱗片葉）を脱ぐ。この鱗片葉の脱落痕。鱗片葉は 1 枚なので脱落痕は枝を一周する。図鑑などでは・・・托葉痕と書かれている場合があるが間違い。

*一年枝の分岐：ミツマタとハウノキの分岐の違いは？ 普通は冬芽からシュートは 1 本ですが・・・。一年枝の観察から・・・ミツマタは順次開葉で赤褐色の 1 年枝の途中で 3 分岐、ハウノキ（若木）の展開は一斉展開、一年枝を伸ばしてから葉を束生展開する、この一年枝の展開途中で分岐。同じように展開するのが、常緑樹ですがタブやホソバタブです。

*ツバキと山茶花の違い・・・誰でも知っている。だが、落ちたツバキの花からメシベを探せ！

これは画像を掲載したのでご理解頂けたでしょう。現場では、数人の方が落花を手に取りオシベをかき分ける姿も見られました。「きずきの森」で出題してみましたが・・・落花を手にする人はなく、皆さますぐさま芽鱗の先から突き出たメシベを見つけて下さいました。

萼は？・・・特定できない。花芽を包む鱗片葉が萼の役目を兼ねる、で落ち着きました。

*ネコヤナギ・・・咲いているのは雄花、雌花？

これも、ヤナギ類の生き様を理解されておれば雌株は花の後に果実をつけ、5、6 月に「種子はつねに基部に白毛（いわゆる 柳絮リュウジョ）があつて風に乗って散布される」をご存じであれば、雌株は植物園などには植えられない理由がお判りでしょう。

*コナラ・クヌギ・・・枝に枯れ葉が落ちずに残る。どうして？

これは、正解者あり。これ等の落葉性のドングリの樹の生き様。通常これ等の樹は一斉開葉樹ではあるが、若い樹齢の樹や、強度の刈込があつた場合の「萌芽」の伸長枝では果実をつけることがないので樹勢を伸ばす様に晩秋まで順次開葉を続ける。出来るだけ遅くまで光合成を続ける結果、葉の基部に離層を作らないので冬季になっても枯れ葉を残す。

なお、前報末尾掲載の 5 枚の花の画像難題もあつた？と思いますが正解された方が 1 名いらっしゃいました。上段の 3 枚は「クサボケ」「（ベニバナ）ユキヤナギ」「アーモンド」この 3 種は多分おわかりだったでしょう。下段、左は葉が三行脈を持つので、クスノキ科。箕面の森や奈良公園などでは早春に開花が見られるはずです。「イヌガシ」です。この附近では 2 ヶ所、前庭に植えられています。

前報の下・右の花の画像、現在の姿は右です。この画像であればお分りになった方もあつたでしょう。「ベニバスマモ」です。

本報はこれまでとしておきます。

以上

